

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科／食品開発科学科		
科目名称	教育相談						授業形態		講義	
科目コード	421160	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	矢島 順								ICT活 用	○
授業概要	教育相談の視点を通して、子どもや子どもを取り巻く社会全体の実態の理解を目的とする。 教育現場における問題発生の察知・把握、教師として行うべき援助、保護者への支援と協力関係、外部専門家の活用と協働、カウンセリングの手法について具体的なケースを考えながら学ぶ。 講師は公立中学校でのスクールカウンセラーを長年務めている公認心理師で、カウンセリングの専門家です。公立中学校現場でのスクールカウンセリング経験を交えて実際の事例検討等を交えた授業を行います。									
関連する科目	カウンセリング概論、臨床心理学									
授業の進め方 と方法	講義は、パワーポイントや講義内容に沿った視聴覚教材を用いて行う場合がある。 講義内容によっては、ディスカッションやロールプレイを用いて学びを深める場合がある。									
授業計画 【第1回】	第1回：教育相談とは 教育活動の一環としての学校教育相談について、生徒指導との比較、援助レベルとレベルに応じた対応などについて学び、説明できるようになる。									
授業計画 【第2回】	第2回：子どもの発達と問題 児童生徒の発達について、エリクソンの心理・社会的発達理論とピアジェの認知機能の発達理論をベースに各段階の発達と教育上の問題について学び、説明できるようになる。									
授業計画 【第3回】	第3回：カウンセリングの理論と実践 代表的カウンセリング理論（精神分析、認知行動療法、パーソンド・センター・アプローチ）の理論と人間観を理解し説明できるようになる。									
授業計画 【第4回】	第4回：子どものアセスメント 学校におけるアセスメントとは「学校生活のさまざまな場面における観察を通じて気づいた情報やデータを収集・把握し、理解を深めることにより援助活動につなげること」です。教師によるアセスメントだけでなく、心理や福祉の専門家とも連携・分担する「チーム学校」体制を整備していくことが提言されていることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携についても講義します。 学校におけるアセスメントについて、各職種との連携・分担も含め理解し説明できるようになる。									
授業計画 【第5回】	第5回：不登校 現場における子どもの問題の一つが不登校です。その実態と歴史、不登校のタイプと支援についてスクールカウンセラーとしての講師の経験から講義します。不登校への理解と支援についてグループワークなども経験することで理解し説明できるようになる。									
授業計画 【第6回】	第6回：いじめの問題の理解と支援 いじめは時に悲惨な結果を生む大きな問題です。 いじめが発生しやすい条件やいじめの構造、いじめの現状と対応について理解し説明できるようになる。									
授業計画 【第7回】	第7回：特別支援教育と教育相談 特別支援教育をめぐる近年の動き、例えばインクルーシブ教育などについて学び、特別支援教育の支援体制について理解し説明できるようになる。									
授業計画 【第8回】	第8回：発達障害 1 発達障害とは主として学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害を指します。各障害について解説し、講師の経験を交え講義します。 学習障害を理解し、二次障害についても説明できるようになる。									
授業計画 【第9回】	第9回：発達障害 2 注意欠如・多動性障害について理解するとともに、その支援、二次障害についても説明できるようになる。									
授業計画 【第10回】	第10回：発達障害 3 自閉症スペクトラム障害について理解するとともに、その支援、二次障害についても説明できるようになる。									

授業計画 【第11回】	第11回：教育相談と福祉 学校現場での福祉の問題は虐待や貧困に加えヤングケアラーにも注目が集まっています。 児童虐待や貧困、ヤングケアラーへの気づきと支援とともに、教育と福祉の接点について理解し説明できるようになる。
授業計画 【第12回】	第12回：教育相談と性の多様性 今日学校現場でも性の多様性について考えていかなければならない問題になっています。 性の多様性をめぐる基礎知識を身につけ、学校、教師が取り組むことについて理解するとともに、そもそも性的マイノリティは”問題”なのかについて議論します。
授業計画 【第13回】	第13回：外傷体験と教育相談 講師は学校現場での事件事故後や災害後の緊急支援にも関わってきました。 被災後のトラウマ（外傷）体験後の反応や回復に向けた初期対応から保護者支援などについて理解し説明できるようになる。
授業計画 【第14回】	第14回：教師にメンタルヘルス1 教職員は高ストレスに晒されています。講師は教職員のメンタルヘルス支援についても長年関わってきました。 教師のメンタルヘルスの現状について理解し説明できるようになる。
授業計画 【第15回】	第15回：教師のメンタルヘルス2 教職員のメンタルヘルス回復への支援を理解するとともに、自分のメンタルヘルスを守るセルフケア、ストレスマネジメントについても説明できるようになる。
授業の到達目標	① 教育相談の意義とその方法について説明することができる。【職業知識・技能の育成】 ② 教育相談の理論と子どもの実態および問題について理解し、具体的な問題に関する対応方法を説明することができる。【職業知識・技能の育成】 ③ 教育実践の中で教育相談を実践しようとする意欲をもつことができ、実際の相談支援活動の内容を具体的に計画・説明することができる。【態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	予習：指定した教科書を事前の熟読し、次回の講義内容を把握する。30分程度
授業時間外学習【復習】	復習：授業終了後に示す課題についてレポートを作成する。1時間程度
課題に対する フィードバック	課題レポートの採点基準および回答のポイントについて、課題提出後解説する。
評価方法・基準	課題レポート計7つ（10点×7＝70点）、単位認定レポート1つ（30点）、計100点で評価する。
テキスト	これからの教育相談―答えのない問題に立ち向かえる教師を目指して― 高岸幸弘他著 北樹出版 ISBN 978-4-7793-0562-7 C3037
参考書	適宜紹介する。
備考	